

Daily Report (号外)

～FOMCの結果について～

概要

FRB(米連邦準備制度理事会)は、4月28-29日に開いたFOMC(連邦公開市場委員会)において、フェデラルファンド(FF)金利の誘導目標を3.50-3.75%で据え置くことを決定しました。今回の採決では、賛成8、反対4で、ミラン理事が0.25%の利下げを主張した一方、ハマック、カシユカリ、ローガン各連銀総裁は金利据え置き自体には賛成しつつ、声明文に残された金融緩和方向を示唆する文言に反対しました。

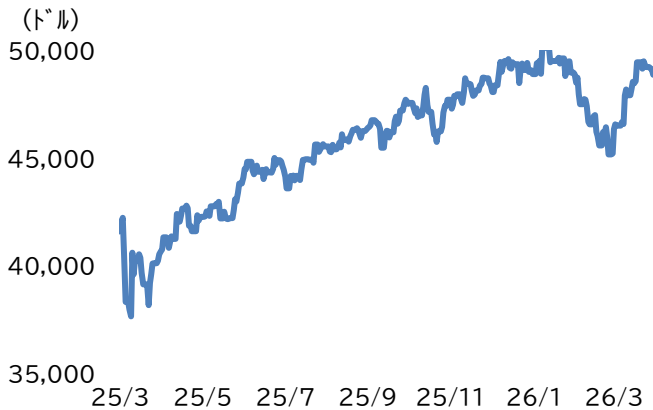
FOMC後に発表された声明文では、足元の経済活動を「堅調なペースで拡大」と表現した一方、インフレについては前回の「やや高止まり」から、世界的なエネルギー価格上昇を反映して「高止まり」に表現を強め、中東情勢の展開は高い不確実性の一因と明記しました。

パウエル議長はFOMC後の記者会見で、米経済はエネルギーショック下でも「かなり底堅い」とし、個人消費の底堅さや旺盛なデータセンター投資を背景に年率2%超の成長が続く可能性に言及しました。同時に、金融政策は「事前に決められたコースはない」とし、今後もデータやリスクのバランスを会合ごとに見極める姿勢を示しました。

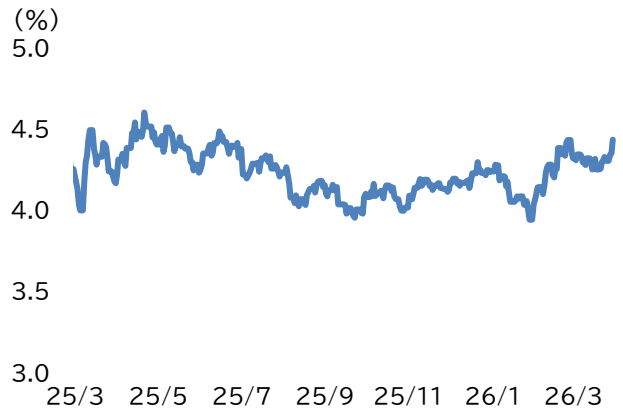
市場の反応(米国市場)

今回のFOMCでは総じてややタカ派的に受け止められたことに加え、米国・イスラエルとイランを巡る緊張の緩和が見通せず、原油価格が大きく上昇したことも材料視され、資産ごとに異なる動きとなりました。米国株式市場では、やや不安定な動きを見せるものの、S&P 500種株価指数は前日比ほぼ横ばいとなりました(NYダウは▲0.57%の下落)。一方で、短期金融市場において年内の利下げ期待が大きく後退したことに加え、原油価格の大幅上昇に伴い、米国10年国債利回りは1カ月ぶりの高水準となる4.43%前後まで上昇(前日比約+8bps上昇)したほか、為替市場でもドル買い需要が高まり、節目の1ドル=160円を上回りました。

NYダウの推移



米10年国債利回りの推移



(期間)2025/3/31~2026/4/29、(出所)Bloomberg

評価及び今後の見通し

政策金利の据え置き自体は市場予想通りだったものの、中東紛争を巡る不確実性の中で、政策見通しを巡る意見の対立が深まっていることが示される結果となりました。声明文のインフレ表現強化と、3名が「緩和バイアス」に反対したことにより、年内利下げの可能性が大きく後退し、「来年の利上げシナリオ」まで意識させた点がサプライズとなりました。

次回6月のFOMCの注目点は、ウォーシュ新議長が正式に就任している場合には、新体制での初のSEP(経済見通し要約)、ドットプロット、記者会見となるため、市場とのコミュニケーションを巡る不確実性は、通常時以上に高まる可能性があります。また、パウエル議長は、議長任期終了後も理事に留任する意向を表明しましたが、トランプ大統領がこの方針を非難しており、引続き、FRBの独立性を巡る懸念が意識されやすい状況です。

今後も、中東情勢と原油価格は重要な不確実性要因であり、原油高がコアインフレや景気にどの程度・どのタイミングで波及するかを見極める展開が続く見込みです。

(ご参考)今後の主要イベント

日程	イベント
2026/4/30	ECB理事会
2026/6/11	ECB理事会
2026/6/15-16	日銀金融政策決定会合
2026/6/16-17	FOMC

出所: Bloomberg